



## スリッパはそろえなければそろいません

校長 赤松 弘一

一昨年(2020年)の8月に神戸新聞の【若者 Box 席】というコーナーに稲美町の14歳の中学生の女の子の投稿が掲載されていました。読んで心に残ったので紹介します。

『最近のトイレは、開く、流す、閉まるまで自動でしてくれます。家庭にも増えてきて、小学校で新1年生には「トイレは終わったら流す」というところから教えるそうです。そんな便利な「自動的」にしてくれる機械が身近にある世の中ですが、学校内はそうではありません。黒板を消すにしても、廊下を拭くにしても、トイレのスリッパをそろえるにしても。常に誰かが動いていないと学校生活は過ごせないのです。例えば体育祭や音楽コンクールを思い出してみてください。準備から片付けまでスムーズにプログラムが進行できるのは、決められた役割を一人ずつが果たしているからです。

学校は「自動的」なことが何一つありません。ですが不便とは感じないのです。その訳は、自分の役目を果たし、次のどう動くべきか皆が考えているからです。この力はインターネット内では身に付けられない、まさに学校に通う価値だと思います』

いかがですか。彼女の投稿は学校教育が担っているものを明確に指摘しているのではないのでしょうか。人は泥臭い日常の繰り返しの中で少しずつ成長していくと感じます。コンピュータのように簡単にアップデートできるものではありません。

今回のコロナ対策をきっかけに、勉強も仕事も在宅のままインターネットを活用することが増えてきました。確かに緊急事態などで外出できない状況下では有効な手段です。しかし、それに合わせて教育が大きく変わることに不安を覚えます。私たちの日常には様々な困難や挫折がありますし、他者との摩擦も発生します。それらの中で人は学び、たくましく成長していくと感じます。学校も同じです。他者との交わりを通して自分を知り、求められる責任を果たすために努力し、達成感を得る。そんな経験を積むことで、自己肯定感を高め、忍耐力や協調性を身に付けていくと思うのです。SNSやAIの進歩は便利な生活をもたらしますが、反面、希薄な人間関係を生み出し、様々な歪みをもたらしている現実があります。



4Fトイレの掃除用スリッパ

子どもたちの学習においては、無駄のない決まった手順でただ一つの答えを求める技能を身に付けるのではなく、思考の過程を大切にしながら互いにいろんな考えを出し合って学び合うことで、ひとり一人のもつ創造性や多様性を大切に伸ばしていくことが大切です。最短距離を選んで、できるだけ早くゴールにたどり着くことだけが人生の目的ではない……と思うのです。

2学期は体育大会や文化祭など、学級や学年で力を合わせなければできない行事が続きます。たった一度の本番のために繰り返し汗を流して練習し、悔し涙を流すこともあります。そのような、便利さとは無縁の経験を通して成長する場が学校です。